



急傾斜地工法研究会/相取工法協会



研究会だより

Vol.1
2023.8.21

設立総会を開催 急傾斜地工法研究会ら 2023.6.14

急傾斜地工法研究会と相取工法協会の設立総会が6月14日、ホテル札幌ガーデンパレスで開かれ 参加 26 社は急傾斜地災害の防止とより安全な施工に向けスタートをした。また発起人代表の中塚卓朗・伊丸特殊工事副社長が、両会の会長に就任した。

急傾斜地工法研究会は、3月に開かれた設立準備会議を経て、施工業者・コンサルタント・資材業者・機械メーカーの 26 社が賛同しこの日の設立総会を経て発足した。また施工に特化した相取工法協会は、この中から 15 社で同じく旗揚げとなった。

総会では、会則案の審議や役員・事業計画等をそれぞれ決めた。両会は、難工事の多い斜面防災の社会的課題を解決するとともに、これまで課題となった狭い場所での 機資材搬入を、伊丸特殊工事が特許保有する「相取工法」の開放を受け、より安全で有利に搬入する工法として提案していく。

中塚会長はあいさつで「伊丸特殊工事の特許を共有財産にし、相取工法の普及が会員各社の発展に繋がればいい。また、土砂災害防止のためにより安全な施工方法を目指すとともに、さらには 国土の防災減災にも寄与したい」と抱負を述べた。



役員の選出では、中塚会長のほか両会を兼任する形で、副会長に山根浩山根土建社長、監事に頓所裕之シイナ重建社長が就任。このほかに技術委員会も置き、加賀谷俊明・伊丸特殊工事専務がそれぞれの技術委員長に就いた。また相取工法協会には理事を置き、中塚徹朗（中塚建設）、草塩広幸（草塩建設）、高橋千尋（高橋建設）、佐藤太紀（山高建設工業）、山崎裕幸（丸幸ジオテック）、の5氏を選出。このほか星井摂郎氏（中塚建設）が事業委員長に就いた。事務局は、伊丸

特殊工事内に置き、事務局長に大塩進一・伊丸特殊工事常務を指名した。

設立記念講演会も開催

総会に続き急傾斜地工法研究会と相取工法協会の設立を記念して講演会が開催され設計、施工それぞれの立場から今後の課題を提言した。

はじめにエイコー技研の丸山英俊技術部次長が「急傾斜地工法の設計と今後の課題」をテーマに講演。「満点の仮設計画は



困難」としながらも「これまでの実情にそぐわない部分も設計、積算に反映していくことが必要だ」と説いた。続いて加賀谷技術委員長が「急傾斜地工法の施工と今後の課題」と題して在来工法の問題点を解説。安全性、施工ヤードの狭さ、機資材の荷揚げの課題を相取工法で解決が可能と強調した。

会場には道建設部河川砂防課から青木剛主査、星井篤郎主査、石黒友紀主任、札幌建設管理部治水課から阿部貢士主査の来賓4人も含め 53 人が講師の話に耳を傾けていた。



設立のごあいさつ

急傾斜地工法研究会

相 取 工 法 協 会

会 長 中塚 卓朗

このたび「急傾斜地工法研究会」ならびに「相取工法協会」が設立されました。北海道内には土砂災害警戒区域が1万1700カ所あまり存在し、うち特別警戒区域に8000カ所が指定されています。

「急傾斜地工法研究会」は難工事の多い斜面防災の社会的課題を解決するため工法の技術普及、向上を図り、より安全な施工に繋げ、土砂災害の防止に微力ながら貢献したいと思っています。また、現場は人家と密接している場合が多く、こうした地区に住まわれる方々の安心・安全な暮らしにも寄与できればと考えています。

急傾斜地工事には様々な課題があり、その中でも特に機資材搬入の仮設工は、解決が困難な課題となっています。「相取工法協会」では、機資材を安全に搬入する工法を提案します。それを通して急傾斜地の災害を防止し、国土の防災・減災に貢献したいと考えております。

今回の設立を機に、我々が抱えている問題を共通課題とし、現場見学会や意見交換会を通して認識をひとつにして解決策を探っていきたいと考えています。今後とも皆様のご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

急傾斜地工法研究会と相取工法協会の役員・委員

◇急傾斜地工法研究会 役員・委員

会 長 中塚卓朗（伊丸特殊工事）

副会長 山根 浩（山根土建）

技術委員長 加賀谷俊明（伊丸特殊工事）

監 事 頓所裕之（シイナ重建）

技術委員 丸山英俊（エイコー技研）

奈良哲男（エジソンプレイン）

細谷茂則（シン技術コンサル）

佐々木英人（北海道技術コンサルタント）

山崎裕幸（丸幸ジオテック）

◇相取工法協会 役員・委員

会 長 中塚卓朗

副会長 山根 浩

理 事 中塚徹朗（中塚建設）、草塩広幸（草塩建設）、高橋千尋（高橋建設）、佐藤太紀（山高建設工業）、山崎裕幸

監 事 頓所裕之

事務局長 大塩進一（伊丸特殊工事）

事業委員長 星井摂郎（中塚建設）

事業委員 天沼礼二（新和建設）、溝口晃（沢田建設）、渡辺洋司（星組渡辺土建）

技術委員長 加賀谷俊明

技術委員 山崎裕幸 淵田晋（日特建設）

川股直樹（伊丸特殊工事）

第1回現場見学会を留萌で開く

急傾斜地工法研究会と相取工法協会は7月24日、第一回目となる現場見学会を留萌市内で開催した。現場は、山高建設工業が施工する「留萌南町4丁目2急傾斜地崩壊対策」で留萌建設管理部の発注。伊丸特殊工事が土留柵工を相取工法で請け負っている。見学会には、会員企業はもとより道外からも資材メーカー数社が参加するなど、総勢34人が施工中の急傾斜地工事を実際に目の前にした。

はじめに中塚卓朗会長が「多数の皆様にご参加いただき感謝いたします」とあいさつ。山高建設工業の入山進現場代理人は全体概要を説明。加賀谷俊明技術委員長が、相取工法でジブクレーン3台を段階的に急傾斜地に設置した過程を解説した。見学時は3台が稼働中で、最上段8段目の土留横材設置を終え、その段のU型側溝も完了していた。今後は、下の段に順次土留柵を施工していく段階だった。



参加者は、昇降階段を上りジブクレーンのそばに近づいたり、H型鋼の足場を確認するなどしながら急傾斜地工事を安全に施工する難しさも感じていたようだった。特に傾斜に張り付くようなジブクレーンの足場をスマホで撮影するなど、これまでに見学する機会がなかった現場を体験していた。

山根浩副会長は「設立総会からわずか1か月ほどで、第一回目の現場見学会を早々に開催でき嬉しい。発注者側にも私たちが何をしているかを理解していただくことは重要だ。次回の見学会も秋には計画中なので、機会があるなら是非とも参加を」と呼び掛けていた。



熊下工業さんが研究会に新加入

会員が27社に



このほど工事用モノレール販売・リース・施工の(株)熊下工業（本社・石川県七尾市）さんが急傾斜地工法研究会の27社目の会員となりました。

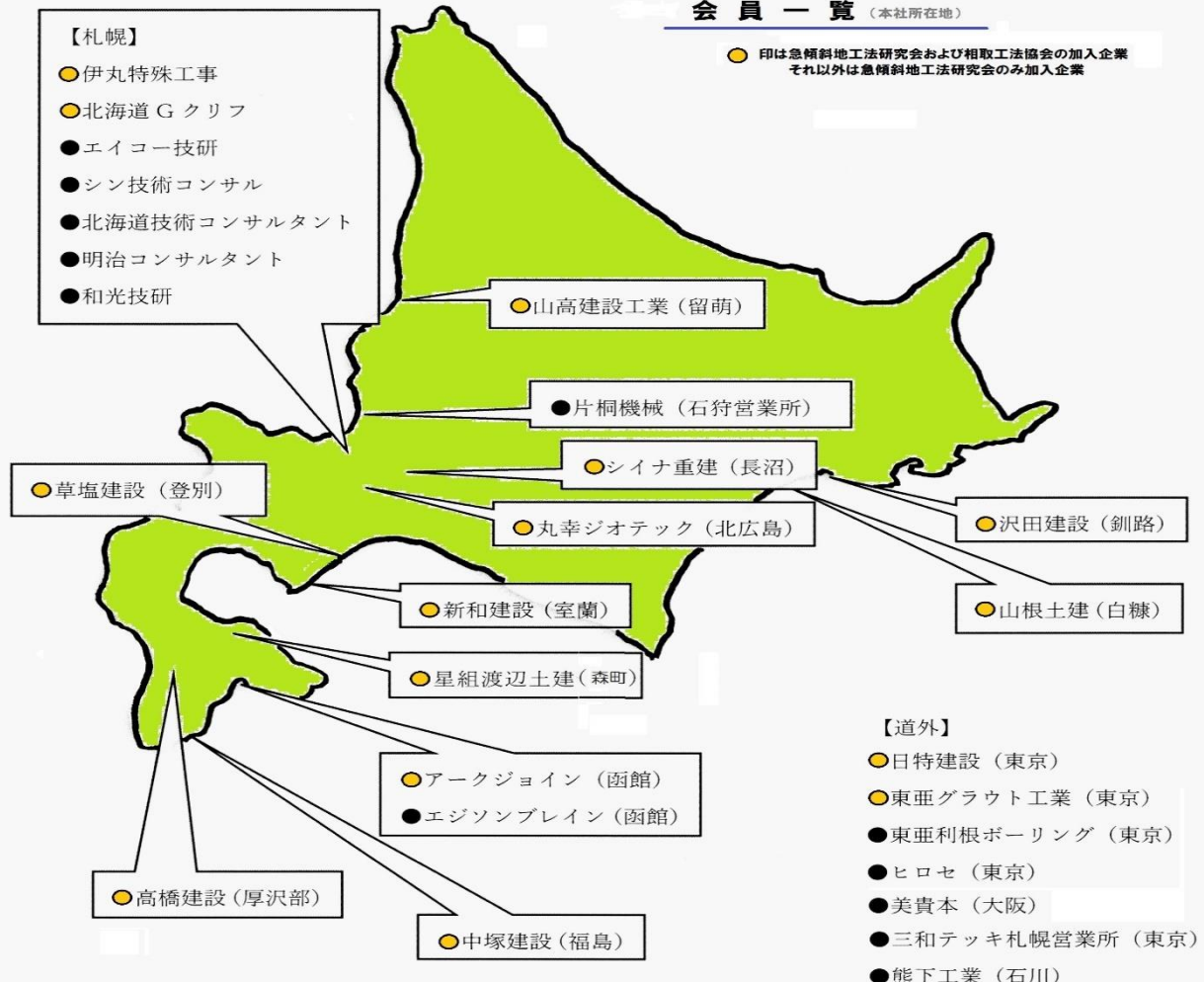
担当は北海道統括営業所（西区西町南16）の太田裕志さんです。さっそく現場見学会にも来ていただきました。今後ともよろしく願いたします。

工事名	留萌南町4丁目2急傾斜地崩壊対策工事
工事場所	留萌市南町4丁目2
工期	5月16日～11月30日
受注	山高建設工業 8,723万円（税込）



会 員 一 覧 (本社所在地)

● 印は急傾斜地工法研究会および相取工法協会の加入企業
それ以外は急傾斜地工法研究会のみ加入企業



** 事務局から **



事務局の大塩です。

いつも皆様には何かとご協力をいただき、ありがとうございます。

ご覧のようなデスクから皆様に様々なご連絡、情報の提供をさせていただいております。まだ、発足して日は浅いですが、多くの活動を進めてまいりたいと考えております。今後ともご支援ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

研究会だより 第一号 (令和 5.8.21)

発 行 急傾斜地工法研究会 札幌市白石区川北 2312-24 Tel 011-872-6766

発行者 中塚 卓朗

制 作 武山 一美 (伊丸特殊工事)